

座談会:農林統計研究はいかにあるべきか (70-6-8,出席者  
五十嵐光男ほか10名)

|       |          |
|-------|----------|
| 誌名    | 農林統計研究   |
| ISSN  | 09161538 |
| 巻/号   | 15号      |
| 掲載ページ | p. 38-44 |
| 発行年月  | 1970年10月 |

## 「農林統計研究はいかにあるべきか」

日時 昭和45年6月18日

会場 農林省統計調査部会議室

## 出席者

|         |         |
|---------|---------|
| 五十嵐 富士子 | 今 野 辰 次 |
| 岩田 政二郎  | 高 津 順 吉 |
| 植 松 五 郎 | 西 山 延 義 |
| 小 松 昭 介 | 平 田 幸 宏 |
| 小 山 智 士 | 古 江 義 賢 |
| 五十嵐 光 男 |         |

(アイウエオ順)

**司会** 農林統計研究は創刊号発刊以来5年を経過し、会員数も年々増加しているときいております。そうしたことからある程度の余剰金もできるようになりました。会社であればボーナスでも出すところなのですが、それはさておくとして、この機会に今までの経過を顧みて、今後どのように進めていったらよいのか、また内容としてどのようなものを編成してゆくべきかなどについて、これからしばらくの間皆さんのご意見を出しあう中から一つの方向を見い出してゆきたいと思います。

現在までの経過は比較的順調に進められてきたように思いますが、よく考えてみますと、いろいろ改善すべき事柄があるような気がいたしますし、また一方においては、今回の組織改正で地方農政局と統合するという事で、大部模様が変わってくるように思いますので、そのような点も折りまぜましてこれから話を進めてゆきたいと思います。

まず創刊号を発刊した当時の状況からお願いします。

## § 発刊当時の思い出

**A** 農林統計研究が発足して一番最初に苦労したのは、会員をいかに集めるかということでしたが、はじめは、なんでもよいから派手に会員を集めようとしたわけです。

**B** そうでしたね。発足当時は組織を通じて勧誘したわけですが、途中で横槍が入ったりして苦慮したこともありました。

**司会** その一つのテストケースとして神奈川統計でどの位加入するものかアンケートを出してみようかということで、やってみたこともあったそうですね。しかし私はその当時事務所におりましたが、私のいた事務所ではそういうことをやらずに自然に加入したように思いますよ。

**A** その当時全農林がその話を聞いてききにきましたよ。

- C** どのような性格のものなのかとか、職制から出たものかとか聞きにきましたね。
- B** 同じ職場で同じ仕事をしているということで共通の問題があったわけで、創刊号にも書いてあるとおり、そのようなねらいからある一つの刊行物を通じて共通の場をもつということですね。そういったようなことに大部共鳴する人達が多かったように思います。

#### § 内容の充実をはかれ

- D** だんだん会員数も多くなり、またこの組織以外から会に加入する人達も出てきたので、内容の面についてもその辺を考えてある程度大衆性をもたせるとか、読みやすくするとかを考えた方がよいのではないかと思います。

地方にも研究意欲の旺盛な会員が沢山いると思うし、それを汲み出す方法も考えてみてはどうでしょうか。

- A** 地方の人達は能力があってもそれを発表する機会が少ないだろうから、それをこの統計研究の場で発表してゆくという形にもっていったらよいと思いますね。
- E** 調査マンとか統計マンとかいっても、それを実際の場に即して生かしてゆくためには、それなりの研究が必要だし、またやっているだろうと思うので、それをどしどし発表するようなムードを作ってゆくことが必要ではないでしょうか。
- D** 要するに誰でも書けるんだという意欲を植えつけるようにしたいね。この農林統計研究が出る以前にも同じような雑誌を作って刊行したことがあったけれども、何か程度が高かったのか、数年で廃刊となったが、会員にあまり程度が高過ぎるという印象を与えないように、その点は十分配慮した方がよいでしょう。

これは会員以外にどの程度配っているんですか。

- C** 部内では部長1部、事務所では所長、課長用として3部、そのほか図書館とか、前に努力していただいた喜多さんとかいろいろ含めて約20部程度を寄贈しています。

司会 寄贈も少ないかわりに寄附もない。…笑

- D** 一ツ橋大学との刊行物交換をやっていたが今でもつづいているだろうか。

**F** 先方の刊行物が途中で出なくなったので自然とやめるようになりました。…笑

- B** 発刊当初会員が気軽に読めるような内容にしようという話があり、また事務所長あたりから意見をうかがっても、やはり誰でも書けると同時に気軽に読めるものであってほしいとの希望が多い。だから高次元のものでなく、未完成のものであることが望ましいのでしょうね。

- A** そのとおりだと思う。むしろ未完成であることに意味があるのであって、自分が疑問に思っていることに端を発することから出発することでよいように思う。

- G** 事務所に出張した時に若い人達がよくいっていますが、もっと判り易い内容にしてほしいという意見があります。はたしてそんな原稿が出て来るのでしょうか。

司会 集ってくるのは大概立派なものが多く、気軽に読めるようなものは極めて少ないようです。

- F** 少しそのような内容のものを掲せてみてはどうだろうか。今まで掲載した内容が高度なものが多かったために仲々気おくれして原稿を出しにくいということがあるから、毎回いくつかそのような内容のものを掲せることによって自然に投稿するようになるのではないのでしょうか。

- B** 当初は投稿に依存していたのでどうしても内容が片寄りがちだったと思いますが、第三巻ごろから編集に思想をもたせようということになって、原稿を依頼するようになった。だから二巻ごろまでは会員の中からそういう批判の声があったように思います。しかしだからといって第三巻のような特集号がよいかどうかには疑問があるように思います。

**G** 経済調査を担当している人達にとっては、数理統計の手法的な面であり縁がないので、そういった極めて専門的分野にはどうしても手が出にくいですね。

**司会** さきほど話の出た編集に思想をもたせるということで特集号に発展させたわけですが、最近ではまた形を変えてきていますね。特集号というのはあまりかんばしくないのでしょうか。

**B** 会員はそれぞれ自分の仕事を中心に考えるため、どうしても狭い範囲で物事をみますね。だからある固定した方式で何か専門的な範囲で編集された内容についてはあまり興味がわかないのではないのでしょうか。例えば畜産関係という範囲でとりあげた場合それ以外の仕事に従事している人達にとっては共通的に参考になる面が少ないので、特集号にする場合は余程考慮をほらわないといけないと思いますね。一例をあげるならば、総合農政とか、農政一般とかという視点の内容だったら誰でも共通する面があるので興味をもって読むのではないかと思います。

**H** こういうことは仲々難かしいと思いますが、いろいろの内容のものを組合せる中から読者層の不満をなくすることが必要でしょうね。そのためには手持ちの原稿が沢山ないとうまく編集できないですね。

### § 組織および運営のありかた

**B** 会員数は出張所に比較して事務所本所が多いと思いますが、最近出張所と本所との人事の交流が会員を増加させている要因になっている面もあるのでしょうか。

**G** そうですね。本所で加入した人は出張所に行ってもやめないし、出張所から本所に来た人は新たに加入する人がでてくるということですね。先日も函館支部でかなり会員数が増えたので、その理由をききましたら、本所と出張所とでかなり大幅な人事異動があり、それが直接の要因だということでした。

**司会** 岐阜の支部から統計研究活動についての報告があったのですが、その内容を紹介しますと、最近の農林統計研究は以前に比べて読み易くなった。しかしまだレベルの高い記事が目立っており、専門的すぎる嫌いがある。この種の内容は同人雑誌的性格を有すべきであり、もっと気軽に投稿できるようであってほしい。例えば調査方法に関するアイデアだとか、地域活動の紹介だとか、あるいは体験談だとかについてももっと掲載するようにしていただきたい。そこで岐阜支部では一人一題を目標にして投稿しようと計画している。ざっとこのような内容です。

**B** 全員に投稿を求めることは難かしいと思いますが、よいテーマがあれば、自分が創意工夫してよい内容のものができるとし、またそういう記事は会員にとっても参考になると思いますね。おそらく会員の皆さんは刊行物を手元に保存して利用していると思うので、そのためにも利用価値の高い内容のものにすべきだと思います。

**司会** 五巻3号に渡辺さんという女性の方の記事で、鶏卵調査についてのアイデアが掲載されていますが、このような研究発表は貴重であり、今後もこのような原稿がどしどし寄せられればいいですね。

**I** 出張した時に事務所の人達と話し合う機会を設けようという方針が以前あって、茨城に行った折に2時間ばかり話し合ったのですが、その際も内容が難かしいという意見がありました。しからば難かしくないものといっても、いざ自分が書くととなると、はたしてどの程度のものでよいのかということがよく判らない。ということもいっていました。

**B** 出張した際は必ず会合の機会を作るようにしようという話はありませんでしたが、仲々実行されてないでしょうね。

**A** 所長や調整官にみせなければ投稿できないということがあって、書く意欲が起こらないとい

うことはないのだろうか。

**司会** そのことがイヤだから書く気がしないということはあまりないのではなからうか。おそらく所長や調整官にみせるのはみせなければ投稿できないというのではなく、そうすることで自分としてふんぎりをつけたいということなんでしょう。

**B** 会員の皆さんはそれぞれ考え方をもっており、その限りでは書ける要素はあると思うんですが、いざ全員に書いてみなさいといっても、それぞれ比較されることのイヤさから仲々書こうとしない。データがあっても。

**G** ある事務所に出張した際投稿するように勧誘してみましたが、本来の仕事をしなくてそんなことをやっていると思われるような気がするといっていました。おかしな話だと思いますね。出張所の人達からの投稿はどの程度あるものでしょうか。

**司会** 大いに出してほしいと思いますが、あまりきませんね。地区調整官からはよくきますけどね。書いてくれる人を見つかるうまい方法はないもんですかね。

**G** 自分の名前が出ることを嫌う場合には匿名にしてはどうですか。

**司会** 新聞の投書ではないのですから匿名を希望する人もないと思いますが、もしあればそうしてもよいのですがね。

**A** 地方農政局と統合したことを機会に地方農政局からも会員を募集してみてもどうですか。そういうことから統計以外の方面にもPRしていただければより普及するのではないですか。今まで出した論文の中から外部で利用されている部分もありますし、また相当引用もされています。学校の先生なんかでは自分の論文を書く資料がほしいということもあって、その面で利用されている場合もあるようです。

**司会** こういうことをやっているんだということをもっと外部に向けて宣伝しますかね。

**E** 各地方農政局に支局をおいて管内の原稿の蒐集から普及宣伝を担当してもらおうということにしては如何でしょう。

**D** 各局二、三人中心になってやってくれる人達がいればうまくいくんでしょう。そして各局単位の編集までしてもらおうということにすれば中央は大部やり易くなりますがね。

**B** はたしてそういう方式でうまくいきますかね。職制とあまり密着しては駄目ですしね。

**H** 札幌では農林統計研究をテキストにしてあるグループで勉強会を開き、よく集まってくるとい話を聞きました。

**司会** そういう話が各地から聞かれることは心強いですね。ところで今後どういう形で編集してゆくかということに話題を移したいと思います。

## § 今後の編集方針について

**A** 今までもいろいろ話が出ましたように、地方の意見も十分とり入れながら、充実させてゆくことが先決でしょうね。しかもその内容の充実というのがただ高度な面ということにとらわれるのではなく真に会員の皆さんが望んでいる方向に即して充実させてゆくことが大事でしょうね。ただ単に下受け作業的な編集ではなく、意志の通じ合う場をもてるようにしたいですね。

**司会** より内容を充実させるということからいって現在の原稿料では安いということはないんでしょうか。

**B** 投稿してくる会員の方で原稿料を目的にしている人はあまりいないと思いますが、安いということは確かにいえると思いますね。

**H** あるとしても研究グループで懇親のための費用としてあてるとか、その程度でしょう。

- B** 原稿料の金額をきめる時にも「とりまとめ料」という名称でしたからね。
- E** 余剰金ができて経理が楽になったとしても会員の原稿料を上げる必要はないと思いますね。それよりも例えば津村さんなど著名な先生に原稿を依頼する回数を多くして興味をもって読めるような内容にすることにむしろ充当すべきではないでしょうか。
- B** 毎号農政問題一般について1/3程度のスペースを割いて載せてみてはどうですか。
- G** 先程原稿が思うように集らないという話がありましたが、次号のテーマを予め載せておくとか、こういう原稿を出してほしいとかを冊子の適当な個所に載せてみてはどうでしょうか。
- B** しかし投稿だけに全面的に依存する方法はある時点に行き詰ることがあるのではないだろうか。

**司会** 前の号に次号のテーマを設定して原稿を募るやりかたは、それそのものの制限条件のようにもなるのであまり望ましい方法ではないかもしれませんね。誰でも自由に投稿して下さいと載せるのはかまわないでしょうがね。

**H** 投稿のあったものは大体載せているのですか。

**司会** 大部分は採用していますが、調査結果の単純な紹介のような内容のものは若干ヒネリをきかせて独創的な部分を挿入してもらうようにお返す場合もあります。

**H** ほとんど載せるといっても以前にとりあげたものと同じような内容のものではそのまま採用するわけにはゆかないでしょう。

**I** 米の問題をとりあげたものの中にはありましたね。

**C** 今まで掲載された内容としては比較的作統関係が多いようですね。書き易いんでしょうかね。

**H** 作統関係が多いということは、視角がまとまりやすいということと、試験関係があるからでしょうね。

**B** 数理統計的なものが分析であるという観念が根強く存在していて、そういう内容のものは尻山出てくるようですが、例えば過疎問題とか、農村社会の問題とかについてはあまりないようですね。こういった問題は大衆受けすると思いきずがね。

**C** それともう少し経済的分析があってもよいような気がしますね。

**E** 広い視野に立ったテーマというのは仲々とりあげにくいので、どうしても狭い範囲の内容になるようですね。

## § 今後どういう方向で進めるべきか

**司会** 今までいろいろお話いただいたわけですが、この辺で今後どのようにこの会を運営してゆくべきかについてお話いただきたいと思います。と申しましてもなんといってもよい原稿をいかに蒐集するかということが重要ですが、調査結果の紹介そのものだけでは意味がないと思いますので、少しヒネリをきかせるというかひと工夫ほしい原稿もありその辺は考えていただきたいと思います。今まで刊行した論文の項目をみても材料が枯渇したとは思いませんし、気軽にどんどん投稿してほしいですね。

**B** こういう内容のものはどうですかね。出張所でやっている地域統計活動などについて具体的に書いてもらうということもよいし、あるいは分析手法の紹介をしてもらうなどというのは。

**A** 分析メモのようなものでもよいですね。

**C** 農村社会の問題としては先程奈良支部からきたのがありましたが、あれは面白かったですね。

- E** そういえば林業関係の記事がないですね。分析するテーマとしては扱いにくいのですかね。
- B** 統計を分析するということになると、経済分析か構造分析かのいずれかになるとと思いますが、どちらに重点をおくべきでしょうかね。
- A** いずれにしても狙いを明確にさせるということが重要であるし、そのためには思想をもつということ、自分の立場をはっきりさせるということの上でないと学問的にはなり得ないということでしょうね。それから先程特集号はあまりよくないのご意見のようでしたが米の問題については現在の時点では重要ではないかと思えますよ。
- B** 米となると問題が大きくなるし、それだけに特集号としてもおかしくないし、また読者層が限定されるという心配もあまりないと思えますね。
- G** 統計の利用者の立場に立って書くという態度も必要でしょうね。
- D** 会員間の交換欄例えば分析手法の質問欄とその回答欄のような頁を設けてはどうですか。
- 司会** 先日のエコノミストの記事に稲作転換の問題をとりあげているのがありましたが、こういったような農政問題に関する記事もあってよいのではないですか。
- A** カレントな問題はいいと思いますが、統計として分析するにはなかなかむずかしい問題があるような気がしますね。やはり統計調査の問題が多くないからですが、ただ調査の紹介や、調査要領の紹介では駄目で、そもそもの調査の考え方や、調査設計時の経過や決定までの背景など、表にでない面が紹介されなければならないのではないかと思います。
- B** 統計組織のなかは調査が専門化しているので例えば過疎問題などの統計はどこでまとめるのか、どこで統計が作られるのか、農政の動きとすぐ対応するところがない、どうにか市町村別の統計が整備されつつあるので、少しは増しな形にはなってきているようですが、先だって神奈川統計で地域統計活動の一環として公害の問題について調べております。これ等は社会の動きに対応したものでしょう。
- C** 地域活動というものも特別に何か調査をやらねばならないというものでもないのでしょうか、やはり日常の実践のなかにしかないはずです。
- D** 地域統計活動は各事務所ごと独自に、現在でも相当やられておることですし、「農林統計研究」のなかに「地域統計の通信欄」などを設けて、各事務所ですべて実践的に行なわれていることを紹介することも必要だと思います。
- E** 札幌統計調査事務所のある出張所で、村の分析結果をもとにして村の農業の将来についてまとめたのですが、村がそれを農家全戸に配ったというのです。
- F** 新潟事務所で「農村工業」について調査を行ない結果をまとめたそうですが、それが全国的に紹介されている。それからは「職員に話しに来てくれ」と言はれて職員は「ひっぱりだこ」になったという話があります。
- G** 地域活動も今までなんとなく日陰ものだった感じがあったがやっと自由に門戸が開かれた訳だから、書きやすくなったと思うのですが。
- A** 集落カードやセンサスの結果表を利用すれば相当の分析ができるのではないですか。
- B** 滋賀県彦根出張所の話だけど、野菜の生産費等について相当質問が来るそうです。
- C** 現在の出張所ではまだ全般的には地方の方々に指導をするという能力に欠けているのではないのでしょうか。
- D** 現在、全国市町村会から要請があっているのですが、それは出張所は「統計センター」の役をはたしてくれという要請です。

- E** 地区協議会などまだ本所の課長さんと呼んでいるところが多いようだが、やはり出張所だけで充分やれるようにならなければうそだと思います。
- F** まだ出張所で出されているものをみていると、統計の解説によっているものが多い。やはりその要因や因果関係にふれるようにしなければ面白くないですね。
- G** 五巻2号に出た「長崎県農家の貧困の構造と問題点」などは面白かった。データ集めに1年位かかったと筆者は言っていたが、よい論文でした。
- A** 事務所はよくやっておると思いますね。
- B** やはり事務所の体制にあると思うのです。先ず人材があること、そして中央が予算的裏付をすること、そして所長が地域統計活動をやる気をもっていること、という体制が必要ですね。
- C** 山梨では「一出張一情報」ということで全職員が情報集めを行っている。
- D** やっている出張所とやっていない出張所とがあるようだ、やはり担当職員の数がまとまらないとできないようですね、その点出張所が小さい北海道などは遅れているようです。
- E** 情報箱を出張所の玄関にそなえて情報を集めている出張所もかなりあるようですね。
- F** 先日静岡に出張したのですが、12~3人の人が毎週研究会を開いているそうです、その時は「曲線回帰の適用」という題で研究会がもたれておりました。
- G** 静岡は今度「高速道路と静岡農業」というのをまとめましたが、よくやっていますね。
- A** 統計もコンピューターを活用しはじめますと、集計を行なうという作業からくる、統計の読みという面白さがうしなわれて行くような気がします。
- B** そこで情報というのがそれによって統計の読みを深めねばならなくなりますね。
- C** 情報というのは情報としての価値をみいだすということが大切であり、その価値をみいだすためにはやはり社会の動きをよく知っておかないと価値判断ができないということになる訳で、どうしてもそこには努力がなされねばならないと思います。
- D** 若い職員の方々は統計を学ぶことが少ないということを聞くのですが、それなりに勉強していますよ、統計の研究会がもたれている所が相当あるようです。
- 司会** 若い職員の方々に大いに期待をもちながら「農林統計研究」にも大いに投稿してもらうことを期待しながらこの座談会を終ることにしましょう。皆なさんどうも有難うございました。

(霞が関支部)